

子育て支援をさらに

砂田市議 赤ちゃんが生まれたり、国保税(均等割)が29400円増える。これは、子育て支援に反するのではないかと。会社員の社会保険では扶養家族が増えても保険料は増えないが、国保だけは子どもをつくつたら罰金のように国保税を約3万円ずつ高くする。全国では子どもの均等割を廃止する市が出始めている。小矢部市が県内で率先して子どもの均等割を廃止すれば、県内に必ずひろがる。

民生部長 本市独自の制度を取り入れる状況にはない。国、県に実施を求めたい。本年度4月の県内担当課長会議において本市からの働きかけにより、このことについて、東海北

国保税

子どもの均等割減免を

18歳までの通院医療費無料化を

砂田市議 この10月から

高校生の入院医療費は無料となつたが、通院医療費の無料化も求めたい。虫歯などすぐに命にかかわらない病気だと、中学生まではすぐに医者にかかったが、高校生になつたら3割負担で、親は「我慢しられ」と言っている。早期発見・早期治療が人間の一生の健康を考

えても大切なことだ。ぜひ通院医療費の無料化も来年度から実施できるように求めたい。

民生部理事 子ども医療費の助成制度は、小矢部市は

から入院医療費無料化の検証をし、第7次総合計画の実施計画において、子育て支援施策全般について検討したい。

計画において、子育て支援施策全般について検討したい。

公約実現を誓う砂田、堀内両氏
市議選投票日翌朝(8月6日)、石動駅前



市議選 砂田市議 9期目の当選

日本共産党 悲願の複数議席ならず

定数16に21名が立候補した小矢部市議選は8月5日投票で行われ、日本共産党の砂田喜昭市議は9期目の当選を決めましたが、残念ながら新人の堀内あきよ氏は議席に届きませんでした。

公約実現へ決意新たに

石動駅前ですら、堀内両氏

投票日翌日の8月6日朝、日本共産党の砂田市議と堀内あきよ氏は石動駅前街頭で選挙結果を報告し、市民の皆さんのご支援に感謝するとともに、掲げた公約の実現を誓いました。

選挙結果を受けて、市民の間からも砂田さんが当選したのはよかったですね、共産党の議席ならなかったのは残念でした。これからはがんばってとの声が多数寄せられました。

新石動駅の利用者増へ

駐車場利用金を長時間無料に

砂田市議 石動駅でのパークアンドライドを促進することで、石動駅の利用者を増やせる。新図書館やあいの風とやま鉄道を利用しを定めていく。休日の鉄道利用者の増たから長時間無料駐車できる仕組みの導入を求めたい。駅北エリア整備は、駅構内に認証機の設定が必要だ。備に税金をつぎ込んででも利用者があいの風とやま鉄道としっかりと協議増える保証はない。

折り返し運転の実現を

砂田市議 高岡止まりの電車は富山駅の高架化に人手が転できるようにして欲しい。3年度までは無理とのこと。今年5月17、18日に日本共産党が富山県と交渉した際に、今年の大雪をふまえる必要と認識している。スループ改修にかなりの経費がかかり、財源確保が課題だ。また、あいの風とやま鉄道として、きかけを重ねてまいりたい。

9月議会報告

南北自由通路での表現の自由確保を

砂田市議 石動駅施設条例の遵守事項に 承認を受けないで

その名の通り自由に行き来できる場所だ。こんな制約は、憲法第21条の表現の自由を萎縮させるもので、憲法違反だ。地方自治法は第244条で、正当な理由がない限り、住民が公の施設を利用することを拒んではならない。また、住民が公の施設を利用することについては、不当な差別的取り扱いをしてはならないとされている。

産業建設部長 条例の遵守事項については、駅施設の安全で快適な利用を確保するためであり、表現の自由を制限するものではない。あらかじめ広告物の内容いか

をしないというものでないが、事前の届け出を必要とする。



テレビをつけたら、健康寿命には運動・食事より〇〇が大事」と。懐かしい有働由美子の顔もチラリ。NHKを退社したと聞いていたので民放かと思っていたら、NHKス・シャル健康長寿の秘策を有働・マツコがAIに聞いた▼65歳以上の延べ41万人に生活習慣や行動に関する600項目のアンケート結果を人工知能AIが分析▼日本人の平均寿命は男性81・09歳で健康寿命は72・14歳。女性は87・26歳だが健康寿命は74・79歳。この差をどう埋めるのか▼AIが導き出した結論が本や雑誌を読む▼番組で紹介されていた健康寿命日本一は山梨県。図書館が人口10万人あたり6・59館(全国平均2・61館)。なぜ読書か、活力や向上心を呼び起こし、行動を起こすきっかけにもなるか▼アメリカの大学の調査でも、図書館の近くにある地域では要介護リスクが少ない▼山梨県では公立学校の98・3%に図書館司書が配置され、子どもの頃から読書に親しんでいる。その配置が昭和20年代からで、65年後の世代がいま元氣だというわけだ▼ひるがえって、小矢部市では市独自で、十数年前から全校に司書を兼任配置し、2011年度から専任化した。小学生の一人あたり年間貸出冊数92冊(2017年)で毎年10%から18%も増えている。この子たちの将来が楽しみだ▼2008年度におとぎの館図書室を拠点に赤ちゃんと絵本を贈るブックスタート事業も始めた。新図書館もオープンすれば勤め帰りに読書にこそしむ、これらの努力を続けて健康寿命を延ばしたいものだ。